

大阪市西淀川区、鼻川神社の由来と社殿測量

沢 勲*・六埜 博治**・河野 賢治**・肥塚 義明*

(洞窟環境 NET 学会*・関西大学校友会**)

History of the Hanakawa Shrine and its Shrine Measuring, Nishi-Yodogawa Ward, Osaka City

Isao SAWA*・Hiroharu ROKUNO**・Kenji KAWANO**・Yoshiaki KOEZUKA*

ABSTRACT

We study an origin and the Shrine environment of the Hanakawa Shrine in Nishiyo dogawa -ku, Osaka-City, and there is the study of the writers for the purpose of making the database of the cultural heritage. Foundation of the Hanakawa Shrine is unknown. Worshipped Gods of the Hanakawa Shrine is the Empress Jingu, the Susanoo-no-Mikoto. Key word of the Hanakawa Shrine is the Empress Jingu, the Nozato ferry, a.k.a. Kashiwa-no ferry and the Yodogawa repair work.

In Nozato-in Sumiyoshi Shrine, the length of the lateral and depth in the main shrine building is 9.1m and 14.1m. In addition, the height of the worship hall and main hall are 6.1m and 2.3m. The authors were able to ascertain the cultural heritage of buildings in the Nozato-Sumiyoshi Shrine.

キーワード:神功皇后、かしわの渡し、淀川改修工事、社殿測量

Keywords:the Empress Jingu, the Nozato ferry, a.k.a. the Kashiwa-no ferry, the Yodogawa repair work, Shrine Measuring




[洞窟環境 NET 学会紀要 3 号][Cave Environmental NET Society(CENS), Vol.3 (2012), 163-170 pp]

1. はじめに

本研究は、大阪の文化遺産学として、地域に貢献する資料を後世に残す参考文献として作成したのである。本稿は、大阪市西淀川区、鼻川神社で行った洞窟環境 NET 学会と関西大学校友会西淀川支部鳥居総合学術調査平成 22(2010)年報告の一部である。西淀川区は、大阪府大阪市の最西端に位置し、東西約 5.31km、約南北 5.94km、境界線距離約 17.68km、総面積 14.23km² である。鼻川神社は、西淀川区の最東端に位置し、標高 3m、緯度 34°42'22"N;経度 135°27'55"Eにある。鼻川神社の鎮座地は、行政上、大阪市西淀川区花川 2-1-12 に属する。本神社に関してはこれまで本格的な学術調査は少ない、新淀川と交差する旧中津川が接近した位置にあり、台風や水害が多く、貴重な歴史文化遺産が消失しているため、歴史の文化遺産をどのように保存できるかを工夫したのである。後世に残す貴重な遺産を継承する関連性も興味深く、そうした点が本神社調査の最初の動機となった。図 1-1 は大正 14(1925)年の西淀川区誕生時の地図で、図 1-2 は鼻川神社の位置図、写真 1-1 は鼻川神社の社殿である。

既存の神社関連資料情報を収集して、調査と鳥居の規模と形態、成因等についての概要を把握し、構成要素の現象を示す事実を明らかにした。そして、区内にある神社と鳥居の大きさに重要な関連性があることを予測した。ただし、区内において、神社と鳥居の存在に関する報告はこれまで皆無である。

単に生駒山の火山活動史だけでなく、北摂の堆積流とその沿岸地域の海岸地形発達史や環境変遷史との関わりで、神社がどのような位置づけや問題点を有しているかという検討が重要である。鼻川神社と行政との関連歴史の結果は、①淀川水系旧中津川口のデルタ地帯上に発達し、対岸に突き出だした半農半漁の集落である。②社記に「神功皇后が、鹿島にお出でになった時、この地にお立ち寄りになられ、住民たちは取り急ぎ、つき立ての餅を柏の葉に載せ、野に咲いていた草花を添え、地名は対岸に突き出した地形が“鼻”のようで、“はなかわ”渡しを“かしわ”と命名。

		
<p>図 1-1.西淀川区誕生時の地図、大正 14(1925)</p>	<p>図 1-2.鼻川神社は①番</p>	<p>写真 1-1.鼻川神社社殿の建築様式は住吉造</p>

㊦以来、この地を“鼻川の里”、渡しを“かしわの渡し”と呼び習わしている。㊧この名を記念してお堂を建て、神功皇后をお祀りした。㊨後に、対岸の海老江の氏神である須佐之男命を祀って『鼻川の社』と称する。①祭礼には、柏餅と菜の花を束ねて御供えする」と記されている。①承久 3(1221)年、神前に豊作を祈願したところ、希にみる豊作となり、集落挙げて感謝、一粒万倍の御利益を賜ったとして、社地を「万倍の地」と称する。㊩明治 30(1897)年、淀川改修工事で社地が河川敷にかかったため、堤防外側に移転。その際、大阪府の神社整理の意向に沿って、姫島神社と書類合併。㊪昭和 9(1934)年、現在の社殿を建てた。

さらに、神社の鳥居の件には、一応の成果が得られたので、解析を行ったのは、㊫神社の鳥居の写真撮影、㊬鳥居の精密測量(鳥居の測量値と模型製作)、特に平面と縦断面計測である。平成 22(2010) 年夏、西淀川区民祭りにおいて中間報告を行った。今後の研究課題、そして神社の保全と環境問題などについて所見を整理した。さらに、短時間の調査であったため、未解明の事項が少なくない。今後も調査を継続する予定であるが、とりあえずこれまでの成果、今後の研究課題、そして神社の保全問題などについて所見を整理した。測量した値は多項式によって解析を行った。

本報においては、大阪市西淀川区、鼻川神社の由来と社殿に関する測量値解析と模型製作と観察を行った結果について報告する。

2. 鼻川神社の由来

当地は、古く淀川水系旧中津川口の三角州(デルタ地帯)上に発達し、対岸に突き出だした半農半漁の集落であった。社記に「神功皇后が、鹿島にお出でになった時、この地にお立ち寄りになられた。高貴の方のお出でを知った住民たちは取り急ぎ、つき立ての餅を柏の葉に載せ、野に咲いていた草花を添えてお出すると、皇后はこれをことのほかお喜びになり、賞味された。その時、地名が無いことを聴かれて、対岸に突き出した地形が“鼻”のように変わっているからと、地名を“はなかわ”、渡しを“かしわ”と命名された。以来、この地を“鼻川の里”、渡しを“かしわの渡し”と呼び習わしている。また、この名を記念してお堂を建て、神功皇后をお祀りした。後に、対岸の海老江の氏神である須佐之男命(すさのうのみこと)を祀って『鼻川の社』と称し、祭礼には、柏餅と菜の花を束ねて御供えする」と記されている。

半農半漁の集落は、「度々水害に遭い、幾度も社殿を修復・改築し、祭の時は住民が交替で祭費を集め、宮座を組み、その経費を賄ってきた」とも書かれている。その当番頭を“とや”と称し、神事一切を主宰し、御供物も調達、煮物を献ずる習慣を受け継ぐなど、厳粛に奉仕し、無言の行事として伝統を承継してきた。承久 3(1221)年、神前に豊作を祈願したところ、希にみる豊作となり、集落挙げて感謝、一粒万倍の御利益を賜ったとして、社地を「万倍の地」と称し、同年社殿を改築し、通常のお供えの外、初めて甘酒を献じたという。万倍の地名は現在も残っている。

明治 30(1897)年、淀川改修工事で社地が河川敷にかかったため、堤防外側に移転。その際、大阪府の神社整理の意向に沿って、姫島神社と書類合併。しかし、その後も、村民挙げて基本金を積立てるなどして再興に務め、大正 13(1924)年 8 月、独立神社として承認され、昭和 9(1934)年、現在の社殿を建てたのである(表 2-1)。(神社データから一部修正)

表 2-1. 大阪市西淀川区、鼻川神社の詳細資料

御祭神	神功皇后、素盞鳴尊(すさのおのみこと)		
キーワード	八坂神社、神功皇后、かしの渡し、万倍の地、淀川改修工事		
鎮座地	555-0023 西淀川区花川 2-1-12	神社創建	創建不詳、神明造
電話番号	06-6471-3903	Fax 番号	06-6473-1986
ホームページ	http://www.cave-ens.com/cave/jinja.html http://www.jinjacho-osaka.net/m01k_06_nisiyodogawa_hanakawa.html		
交通手段	阪神姫島駅東へ・JR「塚本駅」西へ 800m		

3. 鼻川神社社殿の測量と構造観察

本殿(ほんでん)は、祭神を奉斎する建物で、御神体奉安の場でもあり、御神体が安置される中心の建物でもある。大神神社のように三輪山を御神体として本殿を持たない神社もある。主な形式は、神明造り、大鳥造り、住吉造り、大社造り、春日造り、八幡造りであり、本殿・神殿・正殿がある。本殿の規模は、正面から見る柱間の数で表示する。普通は、一間社が圧倒的に多い、全体の九割以上を占め、残りは三間社である。神社本殿は、建築構造から身舎(おもや・母屋)と庇(ひさし)に区分される。向拝や流造と春日造の庇には、角柱を用いる。円柱は正式の柱、角柱は略式の柱と規定する。神社の殿舎の重要な点として、様式が厳重に守られてきた日本の建物では、出入口の位置(妻入りと平入り)で分類できる。妻入りは、大鳥造・住吉造・春日造などがある。平入りは、神明造・流造・八幡造・日吉造がある。鼻川神社社殿は、神明造である。

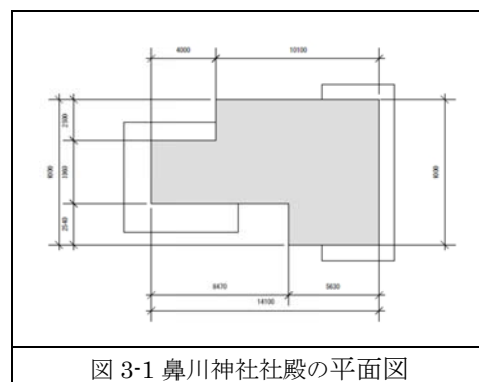


図 3-1 鼻川神社社殿の平面図

神明造は、次の通りである。歴史：純粹・厳格なものは伊勢神宮の内宮・外宮である。構造：掘立柱・切妻造・平入切妻直線構造である。正面が三間、側面が二間。屋根：茅葺(かやぶ)きまたは檜皮(ひわだ)葺きの切妻造、平入の直線的な屋根で板葺や銅葺を含める。伊勢神宮の摂社・末社・所管社のほぼすべては板葺で銅葺である屋根の頂上部は板で覆い、鰹木で補強される。勾配は45度か、緩やかで、反りがない。千木と鰹木：耐候性を高めるため金銅製などの装飾金具使用。屋根を支える側面の破風は継手で、先端が飛び出し千木となる。鰹木を使用。柱：柱と地面の間には掘立柱。両側面に棟木を支える棟持柱(二柱)である。破風がのびて千木となる。柱は左右対称・左右方向には偶数本の配される。側面中央の壁面より外側に飛び出し棟へ達する棟持柱は、太く強度のある用材が用いる。社殿の中央には心の御柱が配されるが、これも強度には寄与しない。壁：十分な強度を持つ板材を用いる。正面中央の1か所のみには観音開きの御扉による開口部が設ける。御扉は通常1枚板が用いられるため、大規模な社殿では相当の古木が必要とされる。床：風性を重視した床が高い構造で、高床式倉庫の名残と考える。神社建築の本殿の基本的な形式と屋根の形式は、次の正面・平面・側面である。図 3-1 は鼻川神社社殿の平面図である。社殿の規模は正面横 9.1m、奥行き 14.1m、拝殿高さ 6.1m と本殿高さ 2.3m である。

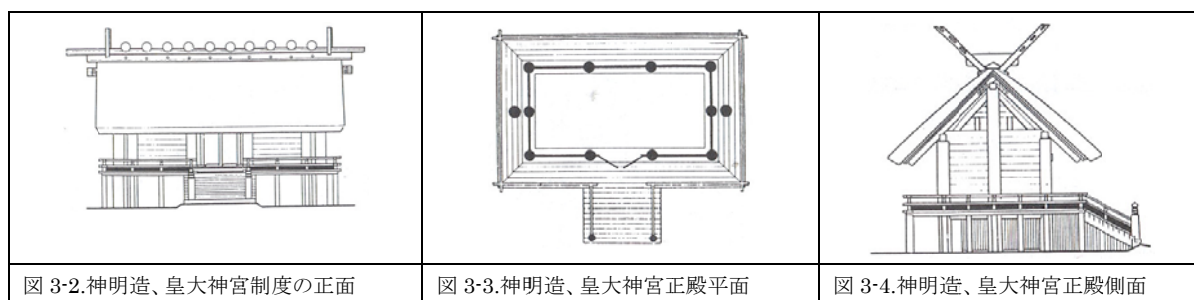


図 3-2. 神明造、皇大神宮制度の正面

図 3-3. 神明造、皇大神宮正殿平面

図 3-4. 神明造、皇大神宮正殿側面

図 3-2 は神明造の皇大神宮制度の正面、図 3-3 は神明造の皇大神宮正殿平面、図 3-4 は神明造の皇大神宮正殿側面である。

表 3-1. 西淀川区区内にある 8 神社の社殿の規模(m)

	神社名	創建年	正面横	奥行	拝殿高さ	本殿高さ	建築様式	鯉木	鳥居
1	野里住吉神社	1382 年	16.2	17.2	7.9	8.8	流れ造	5 本	5 基
2	田蓑神社	869 年	12.4	4.9	6.8	分離	住吉造	18 本	5 基
3	姫嶋神社	不祥	8.3	13.3	5.0	7.1	住吉造	5 本	4 基
4	大和田住吉神社	1313 年	10.5	13.1	6.4	5.0	住吉造	5 本	5 基
5	福住吉神社	1656 年	6.1	11.9	4.5	4.5	流れ造	無	6 基
6	鼻川神社	不祥	9.1	14.1	6.1	2.3	神明造	3 本	3 基
7	五社神社	1688 年	6.0	9.1	5.5	5.5	権現造	3 本	8 基
8	大野百島住吉神社	1644 年	7.3	12.4	5.7	5.7	住吉造	無	5 基
	MAX		16.1	17.2	7.9	8.8		18 本	8 基
	AVG		9.5	12.0	5.7	5.6		6.5 本	5.5 基
	MIN		6.0	4.9	4.4	2.3		3 本	3 基



写真 3-1. 鼻川神社の正面



写真 3-2. 鼻川神社の裏面

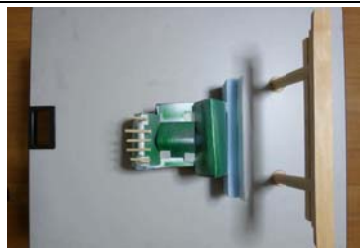


写真 3-3. 鼻川神社の側面

鼻川神社の外観は、写真 3-1 正面、写真 3-2 裏面、写真 3-3 側面のようにになっている。これを、模型 3-1 から模型 3-3 のように模型にした。



模型 3-1. 鼻川神社の正面



模型 3-2. 鼻川神社の上面



模型 3-3. 鼻川神社の側面

表 3-2 は、西淀川区区内にある各神社と社殿の正面横距離の関係を表示した。西淀川区区内にある社殿の正面横距離において、最大値は 16.2m、平均値は 9.5m および最小値は 6.0m である。鼻川神社社殿の正面横距離は、中間の距離である。表 3-1 から表 3-2 と図 3-5 について図式を行った。西淀川区区内にある各神社(X 軸)と社殿の正面横距離(Y 軸で単位は m)の関係から多項式近似(回帰)の 2 次方程式(2 次変数)を求めた。ここで、 R^2 は X と Y の信頼性関係を意味する決定係数である。X と Y との関係を究明するため考察方法として、次のような回帰方程式を与えられる。

$$y = 0.199x^2 - 0.446x + 6.409 \cdots \cdots R^2 = 0.983(\text{決定係数}) \cdots \cdots (3-1)$$

ここで、決定係数は高信頼性の値であり、西淀川区区内にある各神社と社殿の正面横距離の関係から一定の傾向を判明した。

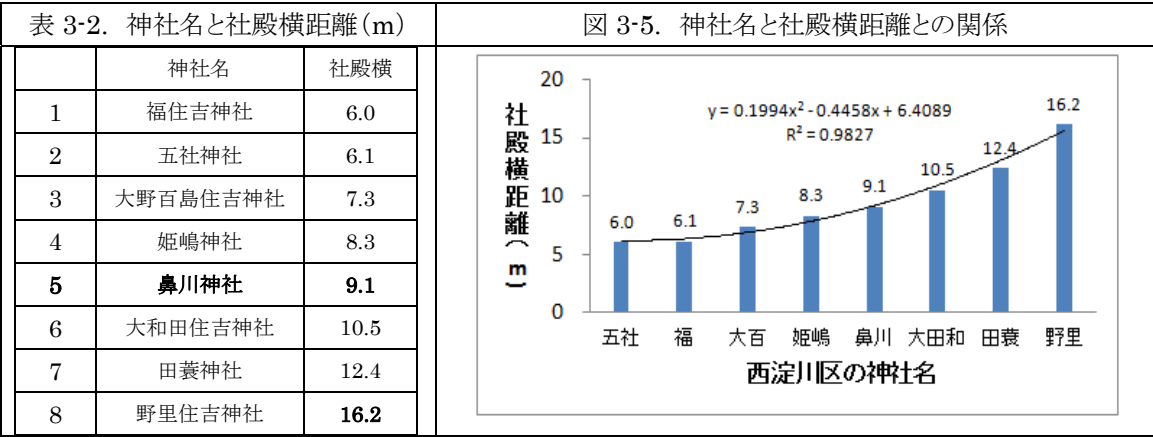


表 3-3 は、西淀川区内にある各神社と社殿横(奥行き)の関係を表示した。西淀川区内にある社殿の社殿奥行きにおいて、最大値は 17.2m、平均値は 12.0m および最小値は 4.9m である。鼻川神社の社殿奥行きは、区内では 2 番目に長い距離である。これは、本殿と社殿が分離され、中央に中庭があるからである。表 3-1 から表 3-3 と図 3-6 について図式を行った。西淀川区内にある各神社(X 軸)と社殿の社殿奥行き(Y 軸で単位は m)の関係から多項式近似(回帰)の 3 次方程式(2 次変数)を求めた。ここで、R²は X と Y の信頼性関係を意味する決定係数である。X と Y との関係を探明するため考察方法として、次のような回帰方程式を与えられる。

$$y = 0.124x^3 - 1.827x^2 + 9.129x - 2.614 \cdots \cdots R^2 = 0.997(\text{決定係数}) \cdots \cdots (3-2)$$

ここで、決定係数は高信頼性の値であり、西淀川区内にある各神社と社殿の社殿奥行きの関係から一定の傾向を判明した。

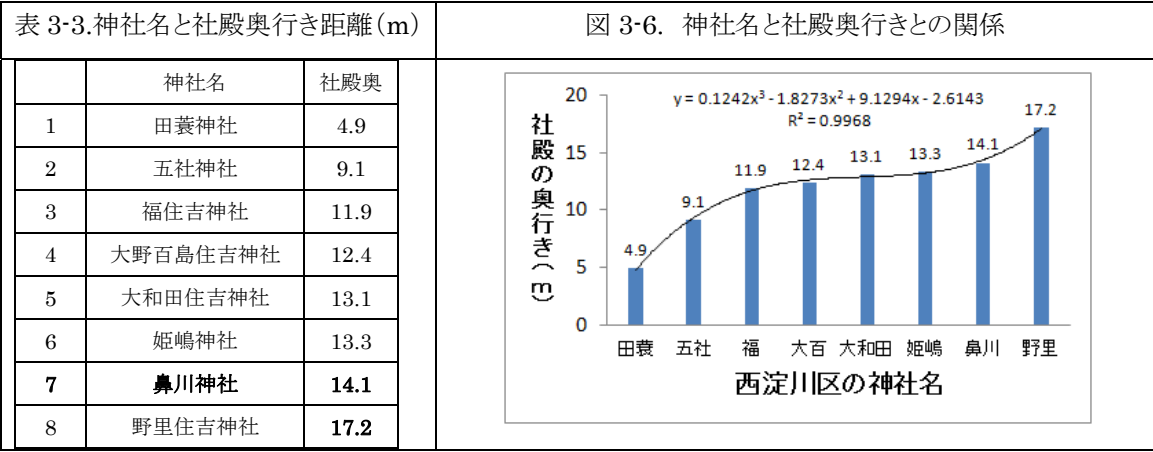
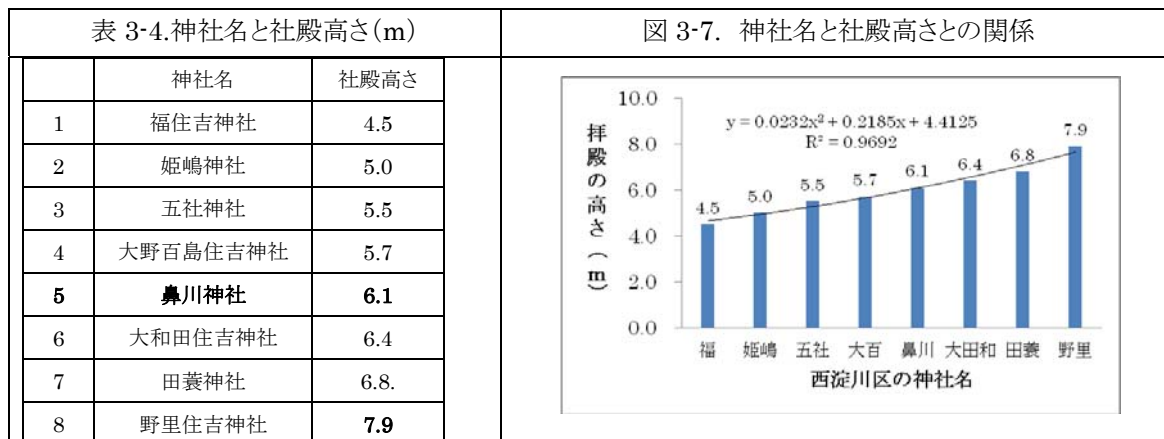


表 3-4 は、西淀川区内にある各神社と社殿の社殿高さの関係を表示した。西淀川区内にある社殿の社殿高さにおいて、最大値は 7.9m、平均値は 5.7m および最小値は 4.4m である。鼻川神社の社殿高さは、区内では中間の高さである。表 3-1 から表 3-4 と図 3-7 について図式を行った。西淀川区内にある各神社(X 軸)と社殿の社殿高さ(Y 軸で単位は m)の関係から多項式近似(回帰)の 2 次方程式(2 次変数)を求めた。ここで、R²は X と Y の信頼性関係を意味する決定係数である。X と Y との関係を探明するため考察方法として、次のような回帰方程式を与えられる。

$$y = 0.023x^2 + 0.219x + 4.413 \cdots \cdots R^2 = 0.969(\text{決定係数}) \cdots \cdots (3-3)$$

ここで、決定係数は高信頼性のある値であり、西淀川区内にある各神社と社殿の社殿高さの関係から一定の傾向を判明した。



4. おわりに

4-1. 西淀川区の地域環境

西淀川区の地名に、竹島、御幣島、佃島、出来島、姫島、百島、中島、城島、西島、外島など、島の名が多いのは、その名残と言える。現在は浸水対策として、大規模な防潮堤が築造され、今後の抜本的な浸水対策として、“淀の大放水路”も着工した。西淀川区の誕生は大正14(1925)年4月1日で、明治・大正・昭和の初期にかけ、水運の発達や鉄道・道路・橋梁などの急速な整備に伴い、紡績・機械・金属・鉄鋼・化学といった近代工業が集中し一大工業地帯を形成した。河川汚濁の多い大野川・中島大水道も市民生活の環境改善を図り、緑あふれる緑陰道路として再生され、広く区民の憩いの場・健康づくりの場として活用されている。

西淀川区の規模は、大阪府大阪市の最西端に位置し、東西間距離約 5.31km、南北間距離約 5.94km、境界線距離約 17.68km、総面積 14.23 平方 km である。

㊦区内最東端の町である柏里1丁目は、34°42'33"Nと135°28'15"E。

㊦区内最西端の町である中島2丁目は、34°42'23"Nと135°25'57"E。

㊦区内最南端の町である西島2丁目は、34°41'13"Nと135°25'05"E。

㊦区内の3島名は中島・西島・佃島。

㊦区内の4鉄道名はJR 東海道本線・JR 東西線・阪神本線・阪神なんば線。

㊦区内の川名は中島川・左門殿川・神崎川・西島川・淀川・旧大野川・旧中津川。

㊦区内の7駅名は塚本駅・御幣島駅・加島駅・姫島駅・千船駅・福駅・出来島駅。

㊦17町名は西島・百島・大野・竹島・花川・千舟・福町・柏里・中島・出来島・歌島・姫里・野里・大和田・姫島・御幣島・佃。

㊦17橋名は中島新橋・辰巳橋・左門小橋・左門橋・中島出来島大橋・城島橋・城島小橋・千北橋・千船大橋・神崎大橋・両島橋・中島大野高架橋・新伝法大橋・伝法大橋・淀川大橋・中島川橋・神崎川橋である。

4-2. 西淀川区にある鼻川神社の調査要約

鼻川神社の由来と社殿測量の解析によって明らかにした点と模型製作を行なった点を要約する。

- 御祭神は、神功皇后、素盞鳴尊(すさのおのみこと)
- 神社の創建は不詳、鳥居建立は1929～1981年である。
- 社殿の建築様式は神明造、鯉木は3本である。
- 社殿の建築物の配置図が作成できたのである。
- 社殿の規模は、正面横 9.1m、奥行き 14.1m、拝殿高さ 6.1m と本殿高さ 2.3m である。

6. 社殿の模型製作は、実測の 17 分の 1 で行った。

		
写真 4-1.淀川大橋（鼻川より福島区海老江方面を眺める）	写真 4-2.西淀川区内では最大級の商店街（JR 塚本駅方面を眺める）	写真 4-3.鼻川神社前の西成大橋記念碑

謝 辞

神社の調査時には、大阪市西淀川区にある鼻川神社の下垣太宮司に了解を頂きました。本論文作成にあたっては、資料提供のご協力を頂きました大阪市西淀川区の第 103 代大阪府議会議長岩見星光・第 106 代大阪市議会議長荒木幹男・山本富士雄・香川婦美子と関係者をはじめ大阪府神社庁と Wikipedia の関係各位に感謝申し上げます。図書文献の調査提供には、大阪市立西淀川図書館の斎藤健一館長に感謝申し上げます。

測量・撮影には地元の西山正明社長・石田信也建築士、および情報分析・情報処理には NPO 法人洞窟環境 NET 学会の八頭司彰久・上野裕・藤田浩史の各氏に厚く御礼申し上げます。

（2012 年 1 月 11 日受稿、2012 年 2 月 2 日掲載決定）

参 考 文 献

- 1) 大阪都市協会編：『西淀川今昔写真集－西淀川区制 70 周年記念』、西淀川区制 70 周年記念事業実行委員会、1995 年。
- 2) 大阪都市協会編：『西淀川区史』、西淀川区制 70 周年記念事業実行委員会、1996 年。
- 3) 外山晴彦・サライ編集部：『神社の見方』、小学館 第五刷、2005 年。
- 4) 梨本敬法他：『これだけは知っておきたい神社入門』、洋泉社、2007 年。
- 5) 正木晃・中尾伊早子監修：『よくわかる！ 神社 神宮』、PHP 研究所、2007 年。
- 6) 渋谷伸博：『日本の神社』、日本文芸社、2008 年。
- 7) 井上順孝：『図解雑学！神道』、ナツメ 第五刷、2008 年。
- 8) 外山晴彦：『神社のことがよくわかる本』、東京書籍、2008 年。
- 9) 洞窟環境 NET 学会：「大阪市西淀川区の神社研究」<http://www.cave-ens.com/cave/jinja.html>、2011 年。
- 10) 沢 勲・西山正明・石田信也・北川和孝：「大阪市西淀川区、田蓑神社の末社と石燈籠と鳥居」、大阪経済法科大学地域総合研究所紀要、3 号、2011 年。
- 11) 沢 勲・肥塚義明・北川和孝：「大阪市西淀川区、田蓑神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2011 年。
- 12) 沢 勲・石田信也・朴永晙：「大阪市西淀川区、姫嶋神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2011 年。
- 13) 沢 勲・富田和広・北川和孝：「大阪市西淀川区、大和田住吉神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2011 年。
- 14) 沢 勲・西山正明・金世徳：「大阪市西淀川区、福住吉神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2011 年。
- 15) 沢 勲・富田和広・肥塚義明：「大阪市西淀川区、鼻川神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2011 年。

- 16) 沢 勲・上野裕・西山正明:「大阪市西淀川区、五社神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2011 年。
- 17) 沢 勲・石田信也・朴永炅:「大阪市西淀川区、大野百島住吉神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要、2 号、2011 年。
- 18) 児玉幸多:『日本史年表・地図』、東京書籍、吉川弘文館 2011 年。
- 19) 沢 勲・西山正明・石田信也・八頭 彰久:「大阪市西淀川区、野里住吉神社の由来と社殿測量」、洞窟環境 NET 学会紀要 3 号、2012 年。
- 20) 沢 勲・西山正明・石田信也・宮本正明:「大阪市西淀川区、田養神社の由来と社殿測量」、洞窟環境 NET 学会紀要 3 号、2012 年。
- 21) 沢 勲・六埜博治・長谷部憲司・石田信也:「大阪市西淀川区、姫嶋神社の由来と社殿測量」、洞窟環境 NET 学会紀要 3 号、2012 年。
- 22) 沢 勲・長谷部憲司・西山正明・石田信也:「大阪市西淀川区、大和田住吉神社の由来と社殿測量」、洞窟環境 NET 学会紀要 3 号、2012 年。
- 23) 沢 勲・西山正明・乾貞人・古谷昭雄:「大阪市西淀川区、福住吉神社の由来と社殿測量」、洞窟環境 NET 学会紀要 3 号、2012 年。
- 24) 沢 勲・西山正明・石田信也・中良紀:「大阪市西淀川区、五社神社の由来と社殿測量」、洞窟環境 NET 学会紀要 3 号、2012 年。
- 25) 沢 勲・西山正明・石田信也・立川昌司:「大阪市西淀川区、大野百島住吉神社の由来と社殿測量」、洞窟環境 NET 学会紀要 3 号、2012 年。